

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	2070800293		
法人名	社会福祉法人小諸青葉福祉会		
事業所名	グループホームやまびこの家		
所在地	長野県小諸市大字柏木1326-1 (電話) 0267-26-3066		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年3月18日	評価確定日	平成20年4月22日

【情報提供票より】 (平成20年 3月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費18,000円、冬季暖房費(11月～3月)4,500円	
敷 金	有 (円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成20年 3月 8日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護 1	2	要介護 2	0		
要介護 3	3	要介護 4	2		
要介護 5	1	要支援 2	0		
年齢	平均 82.3 歳	最低	70 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・林歯科	・長土呂クリニック
---------	------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

浅間山麓を走るサンロードから南に下りてすぐ、なだらかに広がる南斜面に複合施設やまびこがある。身体障害者療護施設を中心に高齢者の施設が立ち並ぶ中に、落ち着いた日本家屋のグループホームやまびこがあり、隣には夢いっぱい白雪姫と7人の小人を配した託児所がある。複合施設一帯を地域としてとらえており、ホームの食堂兼居間からは園庭で遊ぶ子供達の様子が目に見え、その姿を追う入居者の目は限りなく優しい。ホームの開設が2001年ということもあり、入居者の介護度が上がる中で、浴室に手すりをつけたり工夫が見られる。併設施設に出掛けて入浴したり様々な行事に参加し、利用者との交流もしている。法人内高齢者部門の内部研修や外部研修にも積極的に参加しており、近隣のホームとの相互交流も加え、入居者の日常生活の質の向上を目指す積極的な姿勢が窺えた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では特に改善点はなかった。今回介護計画の定期的な見直しながなされており、食事等にも創意工夫が見られ、今後の取り組みに期待したい。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者・副主任が行い、経過は職員に説明されている。入居者の介護度が上がり職員も多忙のため一緒には出来ないが、評価の意義は理解し、改善へ向けて取組む姿勢が窺えた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	複合施設のメリットでもあるが、法人として地域や市役所・関係施設等とのしっかりした事務的なシステムがあるのでホーム独自で会議を開く機会が遅れた。今回初めての運営推進会議の開催が決まり、課題やホームの報告等、家族もまじえ有意義な会議となるよう期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月家族会が開かれ家族の意見や苦情は聞かれている。出来ることから実践に繋げ改善している。折りにふれ家族に呼びかけたり、また施設長のメールアドレスにも意見や苦情を言える仕組みはあるが意見が少ない。今回初めて家族の意向により看取りを行ったが家族の協力の必要性を改めて感じている。家族にとっても、職員にとっても、ホームでの看取りは本人本位で良かったと感じている。関係者の意思統一ができたことが今後の運営に反映されるものと期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同じ敷地内にあるケアハウスやデイサービスに出掛けているが、地域の方と出会う機会は少ない。ホームとしては複合施設一帯を地域としてとらえている。法人全体で地域防災協定を結び、合同で消防訓練・避難訓練も行っており、地域や地元消防団との連携がある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本方針の中に「地域社会と住民との関わりを重視する。」があり、ホームとしては同じ敷地内にあるケアハウス・デイサービスと趣味活動と一緒にいき、隣の託児所とも交流しながら周辺ゾーン一帯を地域としてとらえている。	○	地域密着型サービスの理念をホーム独自に検討し、入居者・家族にも更に分かりやすく説明し、職員も共有できるような取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新年度事業計画で職員に基本方針（理念）を話し掲示している。職員は自分なりにかみくだいて理解し、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	複合施設全体を幅広く同じ地域としてとらえ、同じ敷地内の老人施設でのクラブ活動や行事に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は全員で行わなかったが評価の意義は理解している。自己評価項目の考え方の指針を参考に日常生活のケアの中でも活かしている。	○	外部評価は結果だけでなく過程も大切です。時間的・人的な調整面で工夫していただき、全員で評価に参加して頂くことを期待したい。

グループホームやまびこの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初めての運営推進会議が3月末に予定されている。その場には地元区長、民生委員、市包括支援センター職員、市高齢福祉課職員、地元消防団員が参加、ホームで開催される。	○	今回初めての運営推進会議が行われるが、これを機にサービスの向上や評価の改善のモニター役となっただき、積み重ねることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当部署主催のサービス調整会議に月1回参加し、情報交換等を行い連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームの活動報告書として毎月独自のお便りを発行している。A4紙面の上段をホームでの暮らしぶり、健康状態、方針等の管理者からの報告に割り、下段は担当者からのメッセージが記入できるようになっている。家族の来訪時には金銭納帳を確認していただき、押印もしていただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望、不満、苦情等が気軽に言えるような雰囲気づくりをしている。また、法人の広報誌に公表するなど、対応出来るような仕組みづくりもされている。意見、要望等は出来ることから実践している。		
9		○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	数年前に職員が大幅に入れ替わり、これに対して苦情が多く寄せられた。この件については法人の広報紙で経緯やその後の方向性が示され、家族の理解を得ることができた。入居者主体の生活を送れるように、異動を最小限に抑えるよう配慮している。		

グループホームやまびこの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者の生活の質を高めるために研修は積極的に行っている。研修計画に基づき外部研修や法人高齢者部門の内部研修も行い、職員を育成している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの相互評価に積極的に参加し、訪問や合同研修を行い、学習する機会を持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に一緒に食事したり、お茶を飲んだり、人間関係を築いたうえで入居する仕組みがある。また、ホームの様子を理解していただくために、事前に説明の機会をもっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ時間を共有する人生の先輩として入居者の重みのある言葉に気づいて、職員は改めて尊敬の念を抱くことがあるとインタビューで語った。同じ人間として支え合う関係にあり、温かくて和やかな雰囲気が感じられた。		

グループホームやまびこの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中から言葉や何気ない行動を観察して、各入居者の気持ちの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を大切にし、状況に応じて栄養士や看護師の意見を聞きながら本人主体の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4ヶ月毎に見直しを行っている。状態が変わった時は専門職の意見を聞いたり、家族の意向を聞きながらケース会議を開き見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外泊や通院・受診の付添い等、柔軟に対応している。		

グループホームやまびこの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
zgce					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を大切にし希望に沿って医師の診察を受けている。法人運営のクリニックの医師の往診もあり、本人本意に受診支援を行っている。ホーム初めての看取りも、クリニックの医師の十分なバックアップにより行うことができた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	少し前にホームで初めて看取りを行った。家族と良く話し合い、本人も家族に見守れながら旅立ちが出来た。お互いが理解し、考えが一致し、関係者全員が納得して最大の支援がとれたことが窺える。家族からの感謝の言葉も聞かれたという。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや態度に気をつけながら対応している。記録等も個人情報に気をつけて作成している。個人情報の保護についての意識も学習会等で高めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人本位のペースで行動しているのでゆったりと時間が流れている。一日の流れの基本はあるが個々のやりたいことを優先している。おだやかで暖かい空気が流れている。		

グループホームやまびこの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり盛り付け等それぞれ出来るところで参加している。職員も一緒に食事をとっており、家族のようにおしゃべりしながらゆっくりと食事が出来る。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は少なくとも週2回を目安に行っている。介護度が高い入居者にとって、ホームのお風呂よりゆったりと入れるケアハウスに入浴に行けるのも楽しみの一つである。ホームの浴室は広く深いので、職員2人で介助しなければならない場合の苦勞が察せられる。本人が望み、職員の体制に余裕がある時はいつでも入浴出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの居間兼食堂の窓外には隣接の託児所を見ることができ、3歳未満の乳幼児が遊んだり抱っこされてブランコで遊ぶ姿が見られる。暖かな日差しの中で保母さんと遊んでいる姿を見ている入居者の笑顔が印象的であった。併設施設でのカラオケクラブに参加したりお楽しみ会等もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩に加え、併設施設の車を利用してドライブに出かけたり食材の買い出しに週2回ほど出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵を掛けることの弊害は理解している。日中は鍵をかけていないが、入居者の安全を考え短時間鍵をかけることもある。		

グループホームやまびこの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域と法人が防災協定を結び、年2回、昼間と夜間に防災訓練を行っている。地元消防団による放水訓練や職員の召集訓練も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は量は血圧・脈拍・体温と一緒にチェックしている。水分はお茶などで定期的に摂取している。栄養士の献立でバランスの良い食事が提供されている。ケアハウスの栄養士がホームに来て手伝ったり、入居者と交流出来るのは複合施設ならではのメリットである。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い廊下は民家のように天井が高く青空が描かれている。その左右に居室がある。夏には風が入るように天窓があり、下から手で開けられるため快適に過ごせるようになっている。台所も広く、食堂にはゆったり腰掛けられるように大きい椅子が置かれている。トイレも介助しやすいように広い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇があったりお孫さんたちの写真が飾られ、家にいるような感じである。テレビや本等も置かれ居心地の良さを感じる。使い慣れた家具等もあり、各入居者にあわせた居室になっている。		

※  は、重点項目。